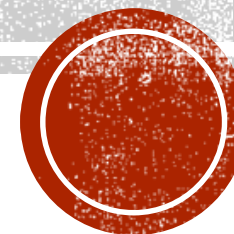


文部科学省委託事業  
「学校教育における外部人材活用事業」

# 学校教育における外部人材活用の効果の検証

国立大学法人静岡大学



# 目次

	頁
事業実施の背景	3
事業内容	11
実施組織	12
事業①結果	13
事業②結果	31
事業③結果	36
本事業から見えた課題	57



# 事業実施の背景

静岡県にはサッカーJリーグの4チームをはじめ、ラグビーのプロチーム、バスケットボールのプロチーム、陸上の強豪実業団チームなどが存在し、高度なスキルをもったスポーツ人材も多く存在すると思われる。

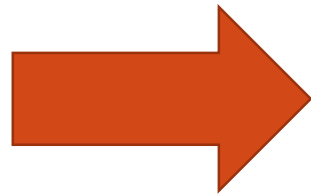
一方、国の方針として地域の人的資源等を活用し、教員の負担減も含め外部指導者の登用などが進められている。



# 日本の体育授業の現状

体育授業で扱われる7つの運動分野

- ・体づくり運動
- ・器械運動
- ・陸上競技
- ・水泳
- ・球技
- ・武道
- ・ダンス



7つの分野に分かれていることに加え、運動分野内での種目数が多い。  
教員が全ての競技において経験豊富な訳ではない。



- ・専門外の競技の指導が十分にできないのではないか。
- ・専門の外部指導員がいたら良いのではないか。



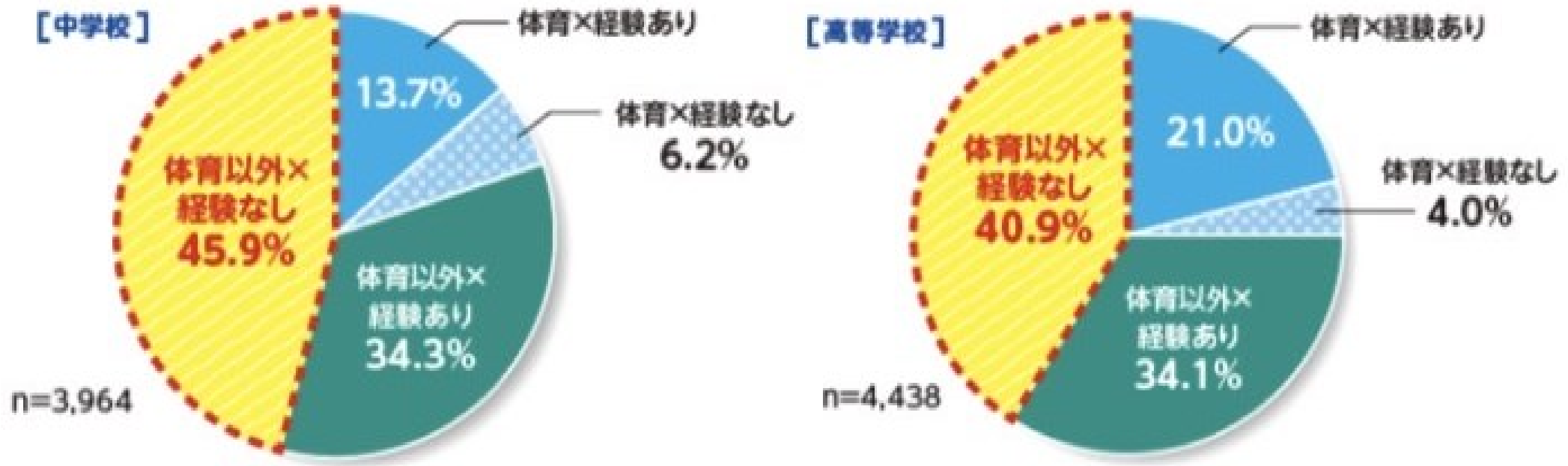
# 外部指導者制度

- 外部指導者とは、学校の授業や部活動の指導およびその補助のために登用される学校外の人材。
- 少子化に伴う教員数の減少や専門的な指導を行うことができる運動・部活動等の指導者不足を補い、体育・運動部活動における外部指導者の充実を図ることを推進している。
- 外部指導者を活用することで、学校での体育や運動・スポーツの指導を多様化させ、充実することができると考えられる(文部科学省、2010)。



# 運動部活動の外部指導者の現状

- ・運動部の数に占める外部指導者の割合は中学校約25%、高校約11%である



(出典) (公財) 日本体育協会「学校運動部活動指導者の実態に関する調査 (平成26年7月)」

- ・体育教員でなく、経験のない種目を教える教員も多くいる。



# 特別非常勤講師制度

## I. 制度の目的・概要

- 地域の人材や多様な専門分野の社会人を学校現場に迎え入れることにより、学校教育の多様化への対応やその活性化を図るため、教員免許を有しない非常勤講師を登用し、教科の領域の一部を担当させることができる。

## II. 担当する教科等

- 小学校、中学校、高等学校、特別支援学校における全教科、外国語活動、道徳、総合的な学習の時間の領域の一部及び小学校のクラブ活動



# 特別免許状制度

特別免許状制度は、専門的な知識経験又は技能を有する社会人を学校教育に登用し、学校教育の多様化への対応やその活性化を図る趣旨で創設された。その授与に当たっては、大学における教員養成等により授与される普通免許状のように学位及び単位等の所要資格を必要としない一方、その専門性の検証が最も重要であるため、静岡県教育委員会では、特別免許状審議委員会を開催し特別免許状を授与することの可否を判定する。

しかし、静岡県では、**教員採用試験での免許状を持たないアスリートに関する特別枠**ではなく、**教員採用試験を受けられないのが現状**。

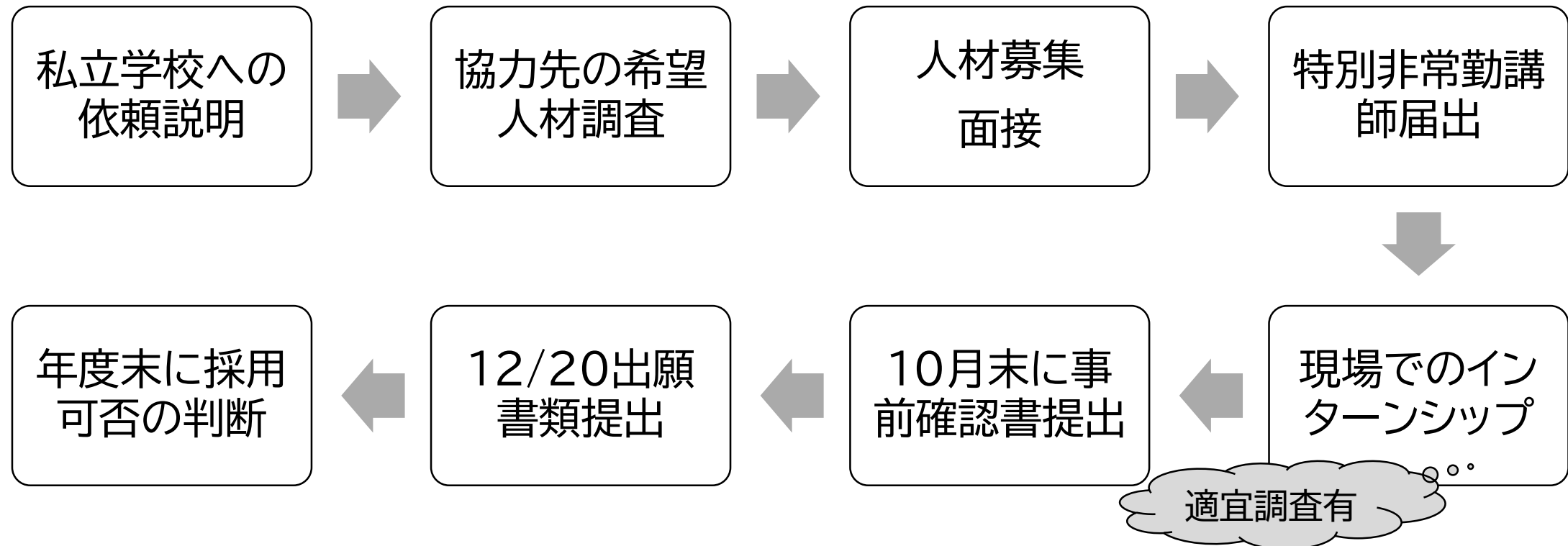
そこで、主に次の2パターンが考えられる。





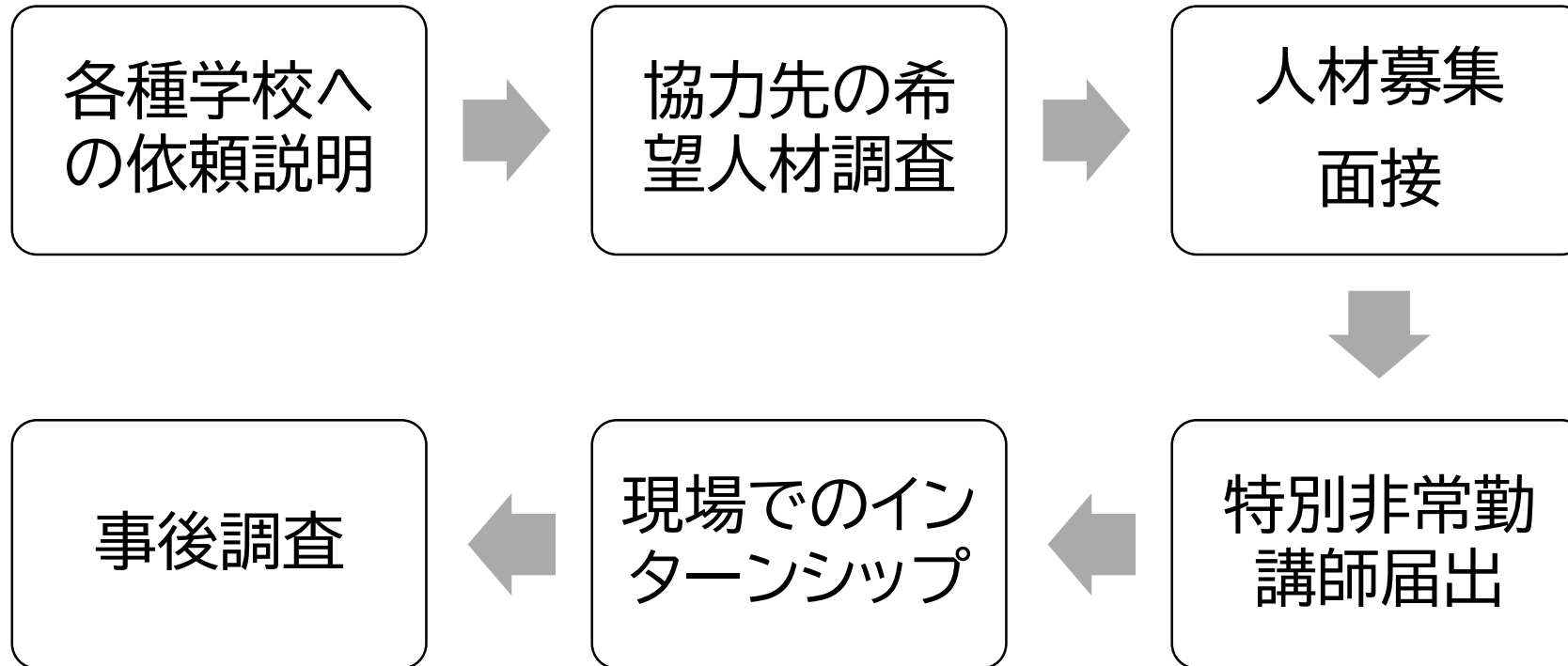
# パターン1：来年度特別教員免許取得を目指す

- 対象：私立の学校が求める人材、来年度からの教職に就こうという意欲のある者
- 職務先：私立の学校(体育の授業+部活動指導)
- 受け入れ先のメリット：経済的な負担なく人物を評価してから採用を決めることができる。



# パターン2:本年度は特別非常勤講師で 将来的な特別教員免許取得を目指す

- 対象:受け入れ校が求める人材、将来的に教員を志す者
- 職務先:特別非常勤講師を受け入れ可能な学校
- 受け入れ先のメリット:経済的な負担なく体育の授業や部活動指導の人材を活用できる



# 事業内容

- ① 体育の教職を希望するスポーツの外部人材と外部人材活用を希望する学校とのマッチングの仕組みの検証  
→ 主担当: 杉山
- ② 地域で不足しているスポーツ人材の専門性を活かすスポーツイベントの開催効果の検証 → 主担当: 祝原
- ③ 外部人材が入職することによる学校現場での授業の質の向上、教職員の負担軽減など成果に関する検証 → 主担当: 屋代



# 実施組織

所属部署・ 職名	氏名	役割分担
静岡大学・ 准教授	杉山卓也	事業総括、外部人材との調整、授業実践の検証、授業プログラムの効果分析
静岡大学・ 准教授	祝原豊	スポーツイベント開催、授業実践の検証、授業プログラムの効果分析
静岡大学・ 講師	屋代滯	外部人材との調整、授業実践の検証、授業プログラムの効果分析



# 事業①

体育の教職を希望するスポーツの  
外部人材と外部人材活用を希望  
する学校とのマッチングについて



# マッチングに向けて

2つの側面からのアプローチによりマッチングを試みた。

- まず、スポーツの外部人材へのアプローチとして静岡県スポーツ協会に本事業の説明を行い、各競技団体への照会を依頼した。その一方で、研究グループの縁故を持って関係者にアプローチを行った。
- 外部人材活用を希望する学校を探るために、最初に静岡市教育委員会に協力を依頼したが、拙速すぎるとのことで協力は得られなかった。その後、静岡県教育委員会健康体育課に協力を得られ、そこを通して県内の公立高校に対して調査協力の依頼をさせていただいた。その一方で、研究グループの縁故を持って関係者にアプローチを行った。



# 学校への調査目的

事業を推進するにあたって、まず現状を調べるため、学校現場で働いている教員のご意見を参考にするべく、体育授業に関してと運動部活動に関して、また外部人材活用希望について調査を行った。



# 調査手続き

期間：2022年度6～8月にかけて調査を実施。

対象：静岡県内の中学校・高校にアンケート調査を依頼し、下記の教員にご協力いただいた。

①体育授業：中学校10校15名、高校40校80名

②運動部活動：中学校10校55名、高校45校191名

アンケートにはGoogleフォームが用いられた。

中学校：縁故法を用いて依頼。

高等学校：静岡県教育委員会を通して各学校に配布。





# 体育授業について

## 結果

・体育授業において、担当する種目が専門外で困ったことはあるか

「はい」:62名(約65%)

「いいえ」:33名(約35%)

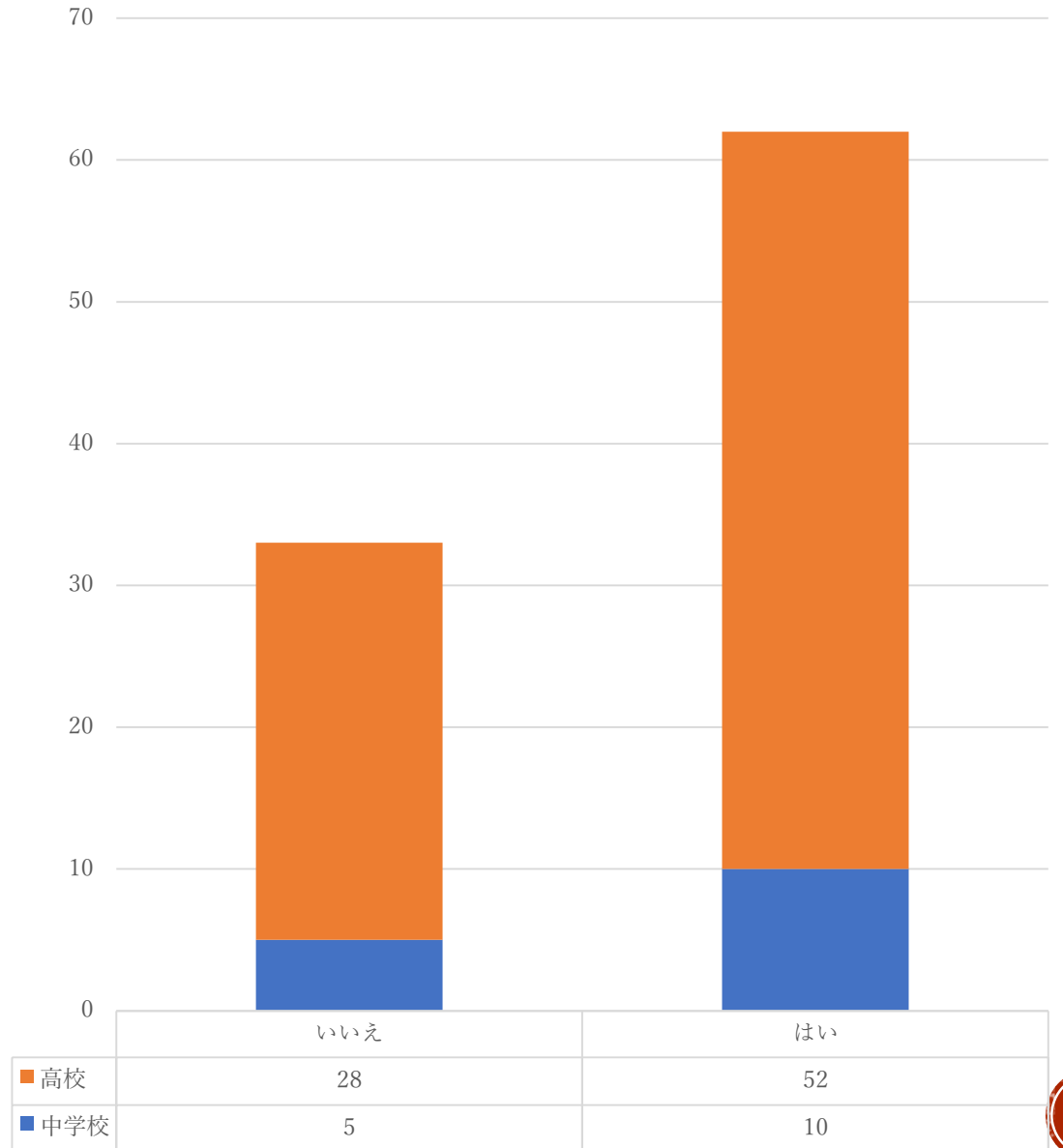
・実際に専門の人材がいた場合、派遣を希望するか

⇒「希望する」

中学:10名(約67%)

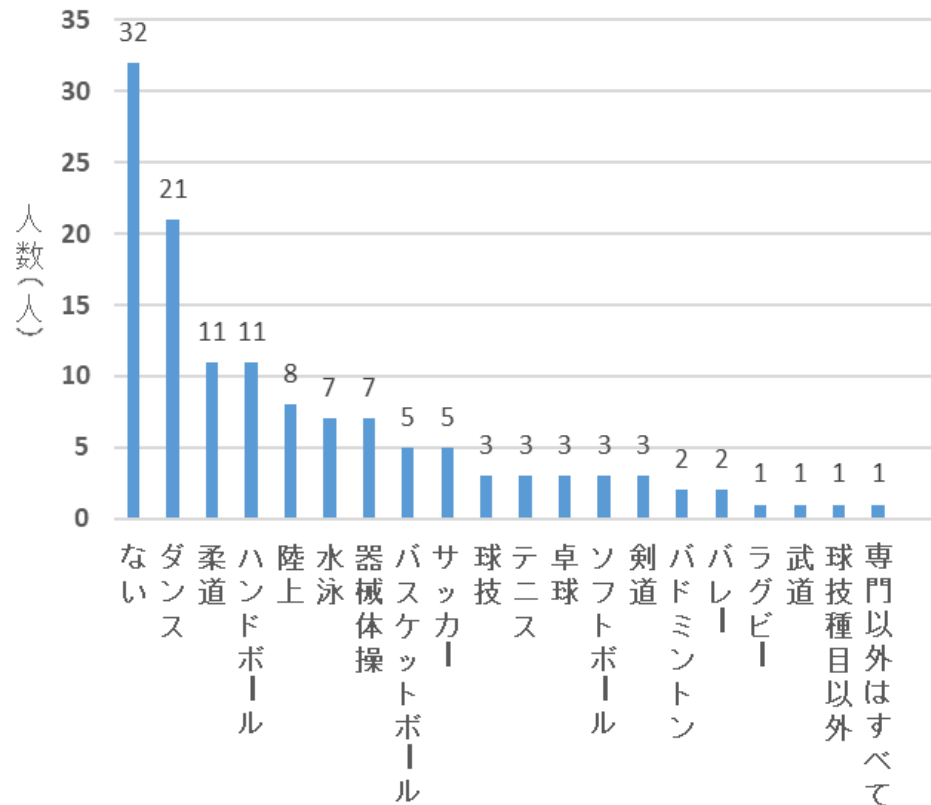
高校:19名(約24%)

体育授業において担当する種目が専門外で困ったことはありますか



## 専門外で困るとされる種目

専門外で担当すると困る種目



・**ダンス** 中学6名・高校15名  
指導方法が分からない  
基本的な動作の模範ができない

・**柔道** 中学0名・高校11名  
基礎的な知識から踏み込んだ指導ができない  
段階に応じた指導ができない

・**ハンドボール** 中学0名・高校11名  
技術的な指導、練習方法が分からない  
生徒もルールをあまり知らない



# メリット・デメリット

### ・メリット

- 高いレベルの技術を教えることができる。
- 教員が今後の指導に活かすことができる。
- 教員の負担が減る。
- 安全の確保が可能になる。

### ・デメリット

- △教員が自ら学習する機会が減ってしまうこと。
- △教員と生徒間の関係が希薄になってしまうこと。
- △外部人材で派遣された者の評価に関する知識が乏しい。
- △クラス、学年ごとの公平性を保つことが難しい。
- △日程調整が難しい。



## 派遣希望とその条件

人材派遣を希望する人

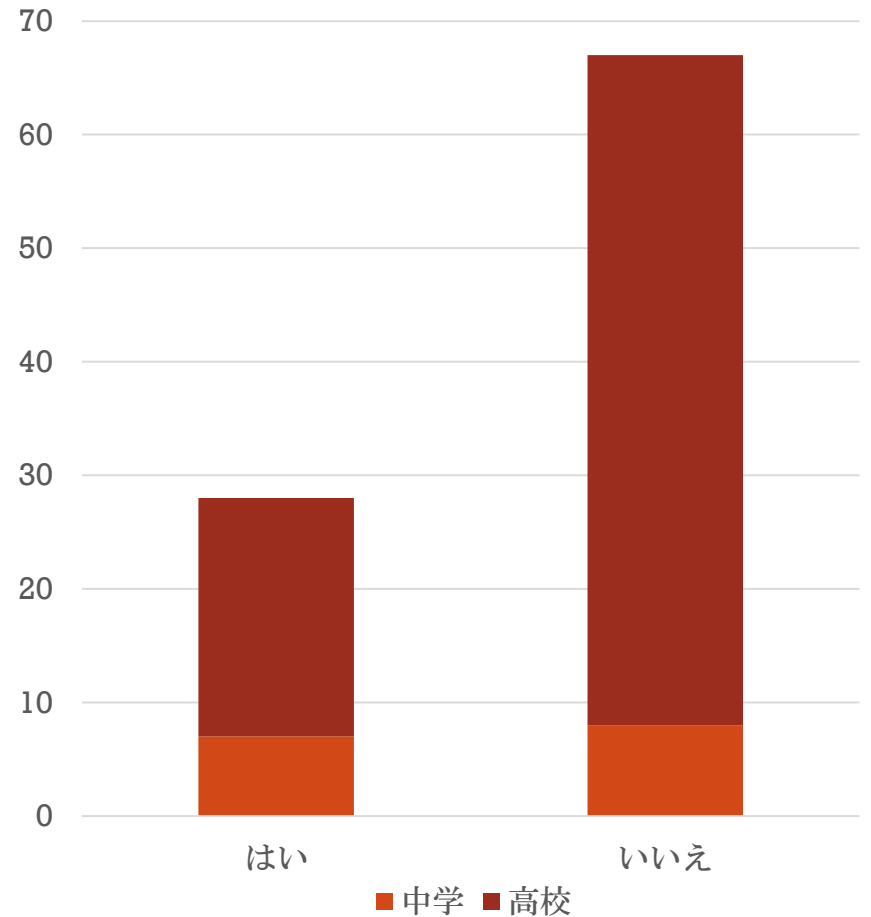
「はい」: 28名(約29%)

「いいえ」: 67名(約71%)

求められる条件

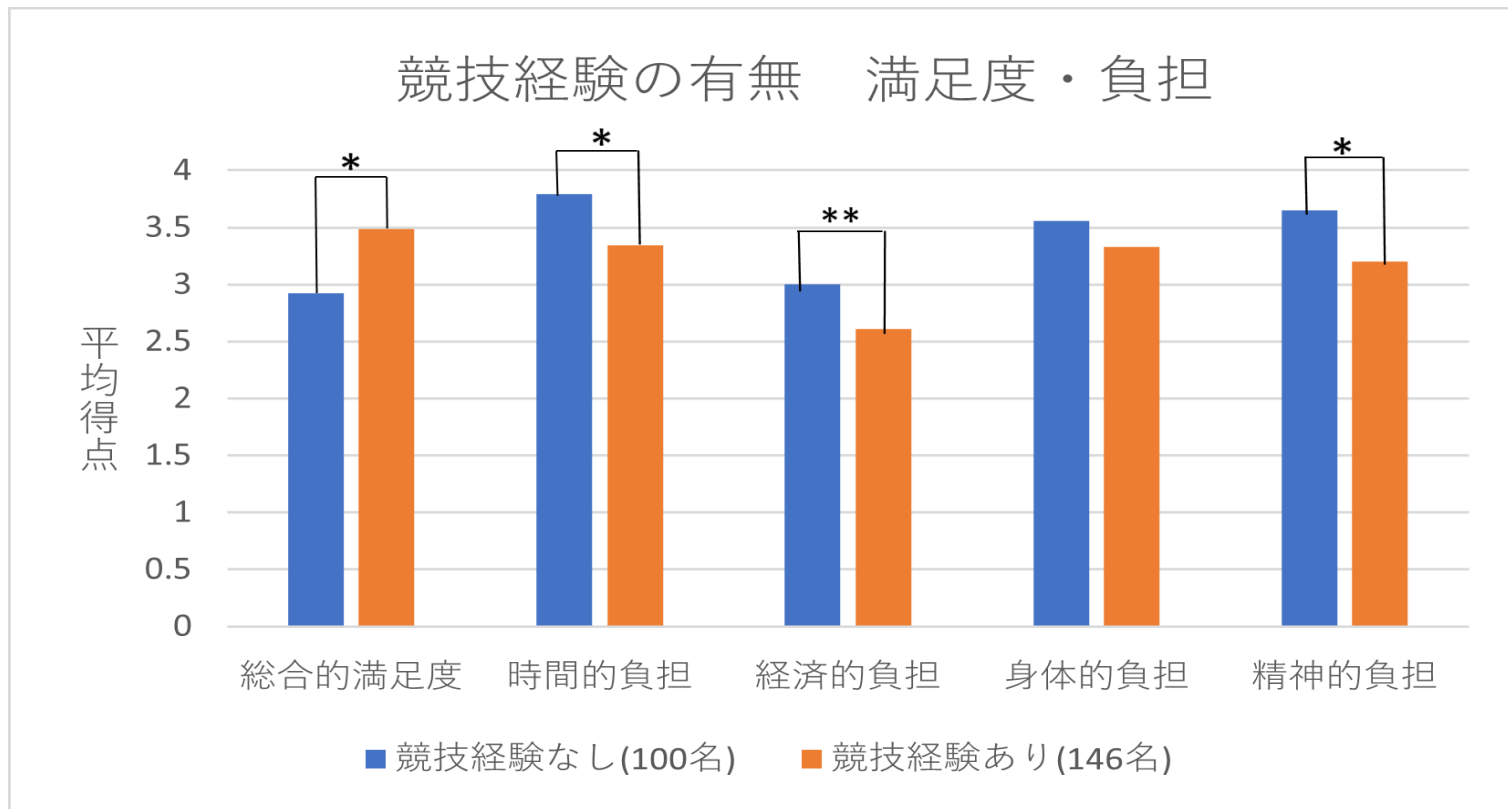
- ・指導経験がある
- ・子どもを第一に考えてくれる人
- ・高い専門性と理論
- ・金銭的、時間的負担がないこと
- ・可能であれば、その学校のことを理解しているOBやOGが良い

人材派遣を希望しますか？



# 運動部活動について

## 結果① 担当部活動の競技経験の有無と満足度・負担について



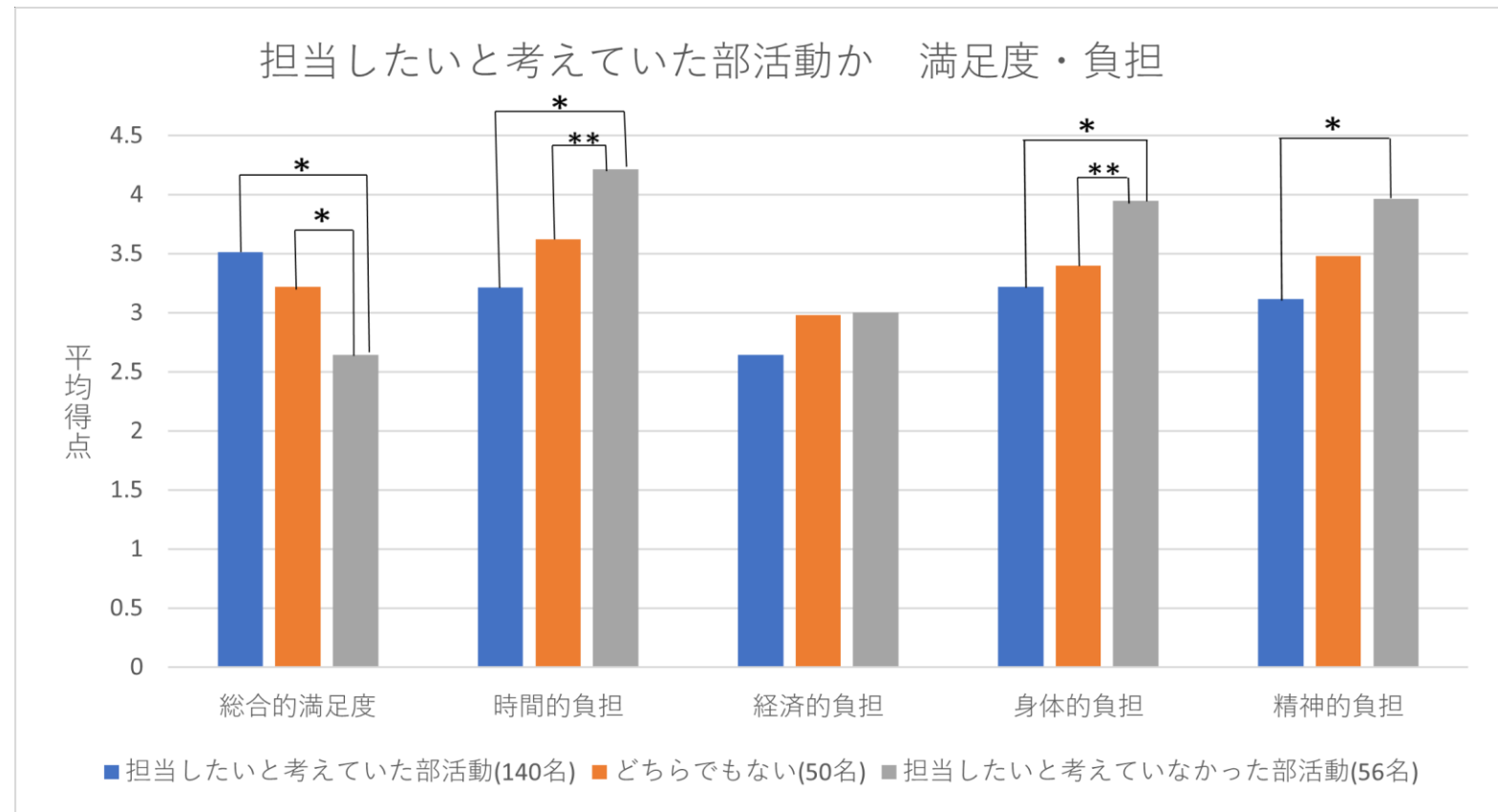
○担当部活動の競技経験のない教員は担当部活動の競技経験のある教員に比べて総合的に部活動に満足していない。

○担当部活動の競技経験のない教員は担当部活動の競技経験のある教員に比べて時間的負担・経済的負担・精神的負担を感じており、特に時間的負担・精神的負担について高いレベルで感じている。



# 運動部活動について

## 結果② 担当希望した部活動への配属有無と満足度・負担について



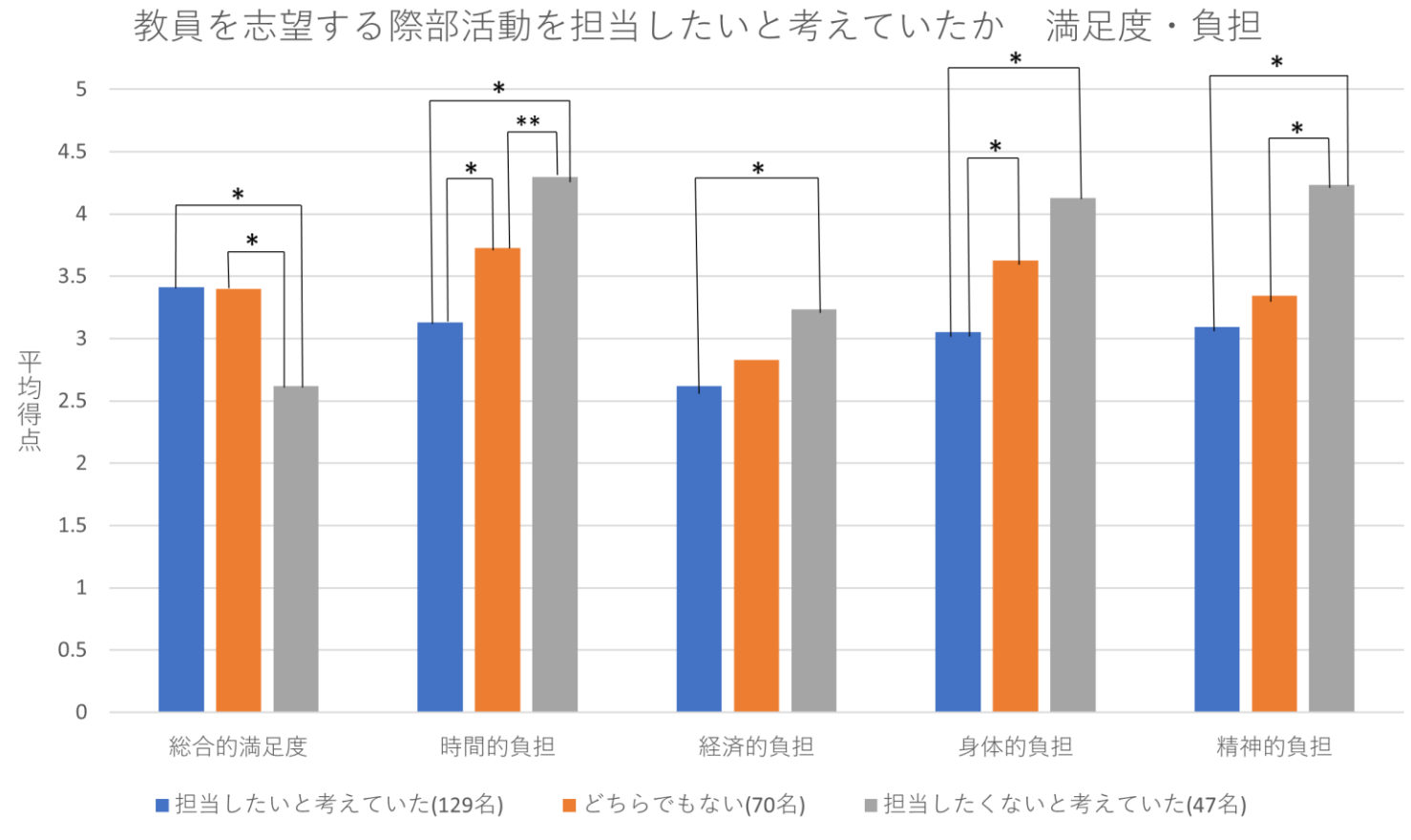
○担当したいと考えていなかった部活動を担当している教員は、他の教員に比べて総合的満足度が低い。

○担当したいと考えていなかった部活動を担当している教員は、担当したいと考えていた部活動を担当している教員に比べて時間的負担・身体的負担・精神的負担について高いレベルで負担を感じている。



# 運動部活動について

## 結果③ 教員志望時の部活動担当希望有無と満足度・負担について

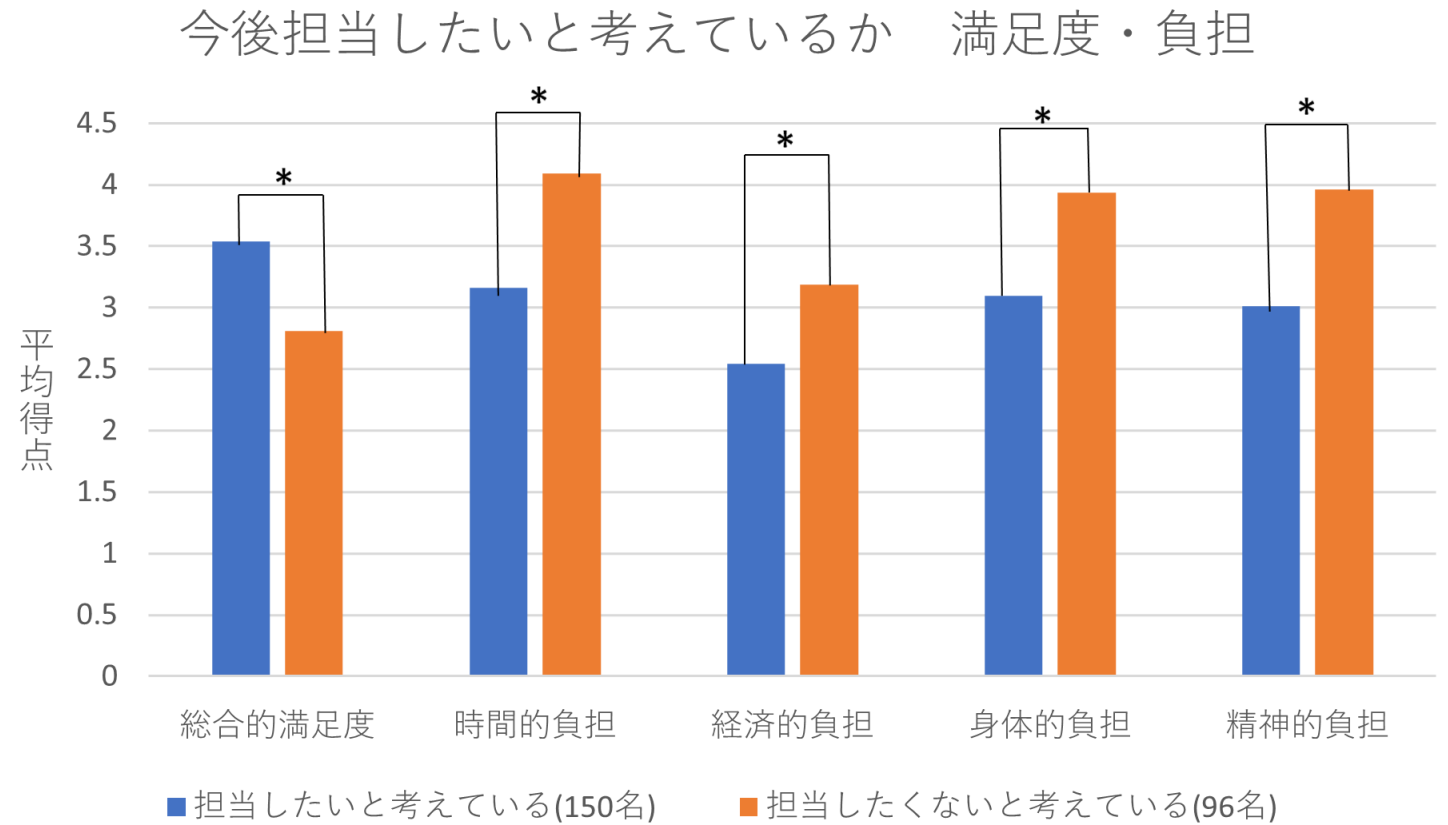


○教員を志望する際部活動を担当したくないと考えていた教員は他の教員に比べて総合的満足度が低い。

○教員を志望する際部活動を担当したくないと考えていた教員は教員を志望する際部活動を担当したいと考えていた教員に比べて時間的負担・経済的負担・身体的負担・精神的負担を感じており、特に時間的負担・身体的負担・精神的負担について高いレベルで感じている。

# 運動部活動について

## 結果④ 継続担当希望の有無と満足度・負担について



○今後担当したいと考えている教員は今後担当したくないと考えている教員に比べて総合的に満足している。

○今後担当したくないと考えている教員は今後担当したいと考えている教員に比べて時間的負担・経済的負担・身体的負担・精神的負担を感じており、特に時間的負担・身体的負担・精神的負担について高いレベルで感じている。

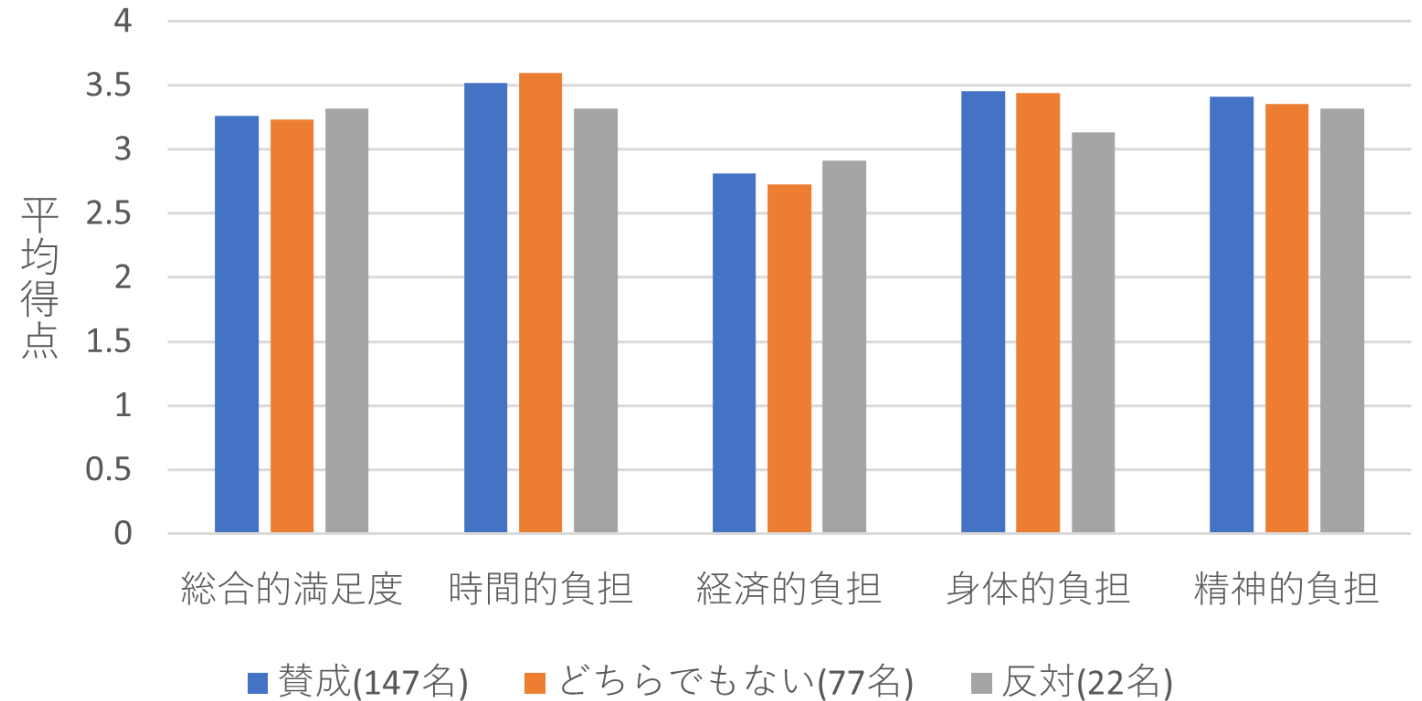




# 運動部活動について

## 結果⑤ 外部指導員派遣の賛否別の満足度・負担について

外部指導員派遣の賛否 満足度・負担

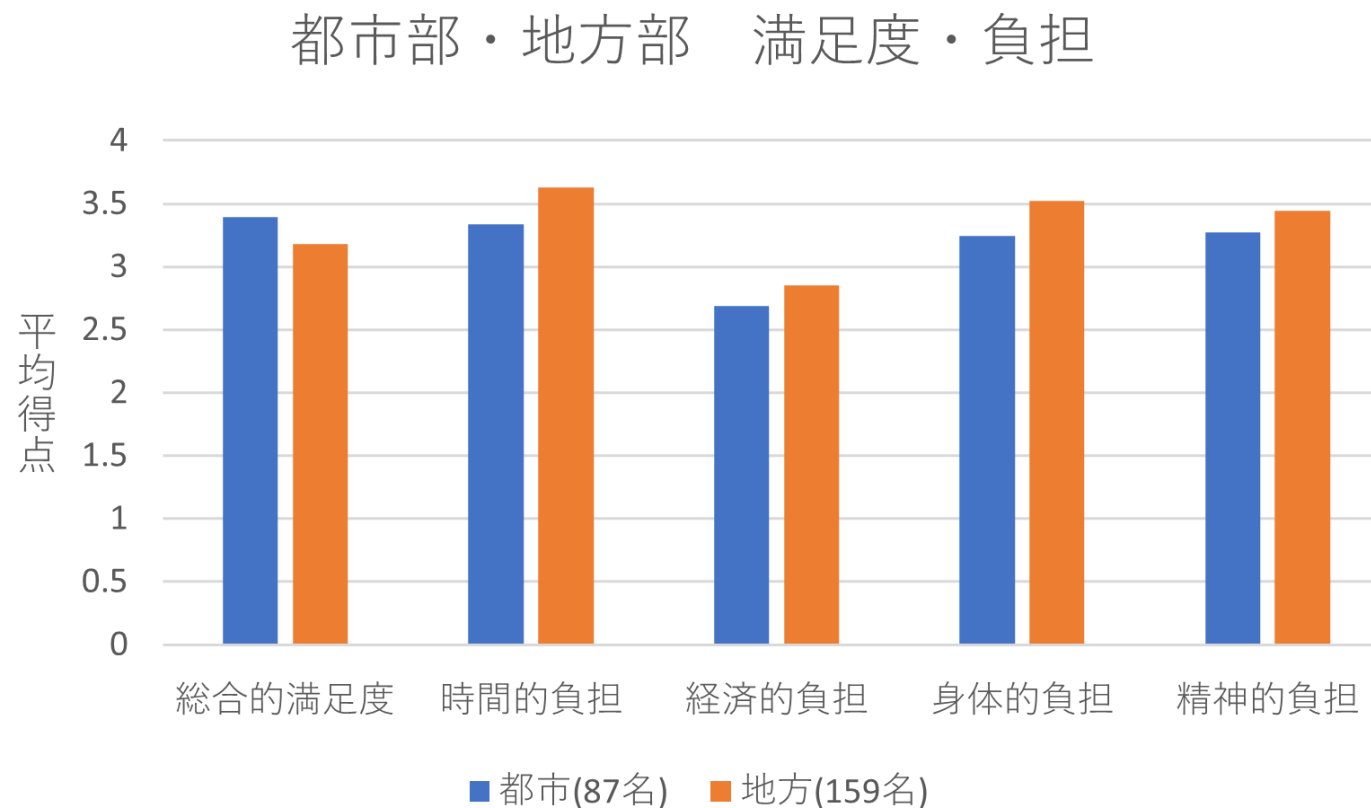


○外部指導員派遣の賛否別の満足度・負担においては有意差は見られなかった。



# 運動部活動について

## 結果⑥ 都市部・地方部の満足度・負担について



○都市部・地方部の満足度・負担については有意差は見られなかったが、平均点については地方の方が総合的満足度が低く、時間的負担・経済的負担・身体的負担・精神的負担を感じている。



# 運動部活動について

## 結果⑦ 部活動の活動時間数について

一週間の活動時間数	一週間の顧問の参加時間数	部活動に参加している割合
14.22時間	11.83時間	0.83



# マッチングについて

- 外部人材については、プロバスケットボール選手1名が本事業に興味を持ってくださり、スポーツの外部人材として活動を行っていただいた。但し当初計画していたフルタイムで事業に携わっていただく人材は確保することができなかった。
- 調査において個人の意見として外部人材活用希望があった先生のいる16校に連絡をとり、学校として活用を希望するかの聞き取りを行った。その結果、2校から活用希望の連絡を受けた。
- 1校については、こちらで募集した人材とマッチしたため、9月1日からの体育授業への派遣に向けて進めていった。



# 人材へのアプローチに関する課題

- 外部人材が圧倒的に足りない。
- 各競技団体任せとなり、個人にまで情報が行き届いていないケースが存在する。
- 本事業が1年(実際は8ヶ月程度)の期限があり、フルタイムで雇用するにしても、出口が見えないので協力していただけない。



# 現場での現状把握に関する課題

- 当初予定していた静岡市教育委員会には本事業が1年（実際は8ヶ月程度）の期限があり、事業期間が短いということもあり、協力を得られなかった。



## 事業②

地域で不足しているスポーツ人材の専門性を活かすスポーツイベントの開催効果の検証



# 「外部人材の専門性を活かすスポーツイベント」 概要

目的: イベントの企画・開催を通して、外部人材の専門競技から得た知見を地域に還元する。

概要: 静岡県中部の地域を小学1～4年生を対象とした運動遊びイベントを開催する。ここでは体の身のこなしをテーマとした6つのブースを用意し、参加者はこれらを仲間と体験して回ることで、運動や遊びの興味や関心を高めることに繋げる。

内容(外部人材の関り): 2名のバスケットボール選手に依頼し、各ブースで体験する小学生と一緒に動いたり、模範を見せる、助言をするなどした。イベント最後にはバスケのミニゲームも行う。



資料: イベントで使用したスタンプカード



資料: 小学校等で配布したイベントチラシ



# 「外部人材の専門性を活かすスポーツイベント」 内容



# 「外部人材の専門性を活かすスポーツイベント」 成果

参加者：当日参加は小学生24名、保護者19名であった。

成果①：単なる簡単な運動遊びの体験イベントではなく、外部人材が卓越した実際の動きを見せることで、より運動の楽しさと奥深さを感じる契機となったと考えられる。

成果②：イベント後アンケート(23名)では、全体の96%が「とてもたのしかった」と回答した。ブースの評価は、選手と直接触れ合った「おにごっこ」や「最後のバスケット対戦」が高かった。自由記述では、「もっとやりたかった」との記述が目立った。

＜カラダっておもしろい！うんどうあそびチャレンジひろば＞

についてのアンケート

今日は、さんかしてくれてありがとうございました。これからのさんこうに  
させてもらうため、かんそうや いけんをきかせてください。

小学校( )、学年( )

① たのしかったですか？

- 1 とてもたのしかった
- 2 たのしかった
- 3 ふつう
- 4 たのしくなかった
- 5 まったくたのしくなかった

② どれがたのしかったですか？ (いくつでもしるしをつけていいです)

- 1 でこぼこジャングル
- 2 スピードチャレンジ
- 3 2人でリンボー
- 4 ペタボードゲーム
- 5 フラフープ大冒険
- 6 カンニングゲーム (おにごっこ)
- 7 バスケットのせんしゅのプレー
- 8 そのほか( )

③ たりなかったこと、さんねんなことはありますか？

④ そのほかに きづいたことがあったらおしえてください。





# 「外部人材の専門性を活かすスポーツイベント」 成果

- 成果③：外部人材が関わることで、保護者の関心も引いた。小学生が今後運動遊びを継続する条件の一つの「保護者の理解や支援」を受けられることの足掛かりとして期待できる。
- 成果④：イベント後、外部人材からイベントに参加した児童が外部人材の所属するプロバスケットボールチームのスクールに入学したとの連絡があった。距離的にも多少離れているのにもかかわらず、このような児童のスポーツへの動機を高められたことは今回の成果の良い一例と言えるであろう。
- 成果⑤：イベントの内容のほとんどは静岡大学の学生が考えたものであり、学生にとってもスポーツイベントの企画・運営をした経験が今後に活きると考えられる。

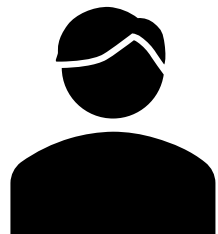


## 事業③

外部人材が入職することによる  
学校現場での授業の質の向上、  
教職員の負担軽減など成果に関  
する検証



# 外部人材について



Aさん 静岡県出身 29歳 国立大学体育学部卒業

※教育実習以外の教員免許に必要な単位は取得済み

競技歴 :小 全国ミニバスケットボール大会出場

中 全国中学校バスケットボール大会ベスト16

高 高校総体ベスト8 / 全国高等学校バスケットボール選手権大会4位

大 全日本大学バスケットボール選手権大会3・4年次優勝

李相佰盃日韓戦 男子日本代表(2016年-2020年)

2020-2022年 Bリーグ プロバスケットボールチーム(B2) 所属

2022- Bリーグ プロバスケットボールチーム(B3) 所属



# 本事業の実施内容

## ■外部人材の週間スケジュール

月 午前トレーニング→ケア(11:30) 13:00~15:00 本事業

火 午前練習 / 午後ウェイト 夜スクール

水 午前練習 / 午後トレーニング 夜スクール

木 午前練習 / 13:00~15:00本事業 夜スクール

金 午後練習 (アウェイの場合は移動)

土 試合

日 試合

## ■担当授業実施割合(2023年2月下旬)

中学校(6割)/高校(4割)

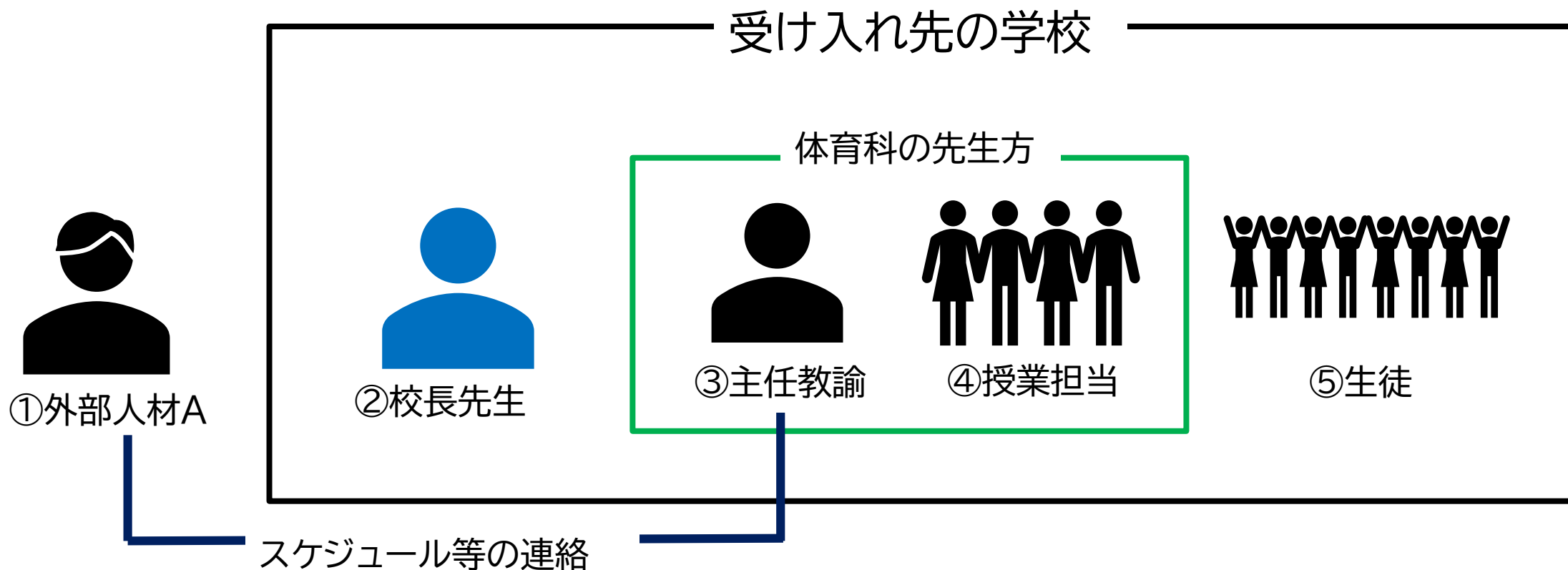
月5限:中学生 月6限:高校生

木5限:中学生 木6限:高校生

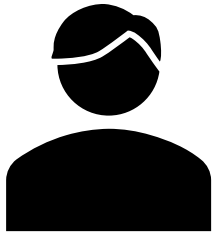
※基本は男子クラスを担当、行事との関係により3回ほど女子クラスを担当



# インタビュー回答者



# ①外部人材へのインタビュー項目



①外部人材A

1. 将来的に教職を志すスポーツ選手にとって今回のような事業は有効であると思うか
2. 選手活動を継続したまま学校現場に行くことのメリット・デメリット
3. 選手活動を継続した状態で、学校現場に行く際の不安要素
4. 受け入れ先の教員の方々との関わりについて
5. 生徒との関わりについて
6. 事業に参加してみて困難だと感じた部分
7. 今回の事業に参加したことによる教職への意欲
8. 実際に授業を行ってどのように感じたか





## ②校長先生インタビュー項目



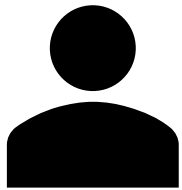
②校長先生

1. 今回の外部人材活用事業を受け入れてくださった理由  
《メリット》
2. 外部人材を活用したことによる教員の皆さんの変化
3. 外部人材を活用したことによる生徒への影響
4. その他  
《デメリット》
5. 外部人材を活用したことによる教員の皆さんの変化
6. 外部人材を活用したことによる生徒への影響
7. その他
8. 今後外部人材を採用したいと思うか
9. 今後の外部人材派遣にもとめる条件や要望
10. 外部人材への給与等を学校側が負担するとなった場合にも派遣を希望するか

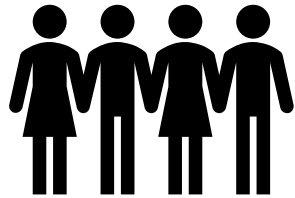


# ③④体育科の先生方インタビュー項目

体育科の先生方



③主任教諭



④授業担当

《メリット》

1. 外部人材との関わりの中で先生自身へのポジティブな影響
2. 外部人材との関わりの中で生徒にポジティブな影響

《デメリット》

3. 外部人材を受け入れたことで心理的負担が増えたか
4. // 身体的負担が増えたか
5. // 時間的負担が増えたか

6. 今後、学校が外部人材を受け入れることに賛同するか
7. 今後の外部人材派遣にもとめる条件や要望



# アンケート項目



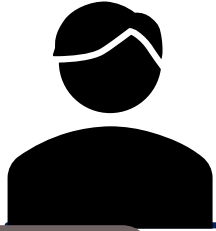
⑤生徒

1. 外部人材Aが担当した授業に満足しましたか？
2. 運動への興味は高まりましたか？
3. バスケットボールに関する興味は高まりましたか？
4. 実際に何か行動に移したこと (自由記述)
5. 外部人材Aの教え方は適切でしたか？
6. 外部人材Aとの関わりの中で印象的なエピソード (自由記述)
7. 外部人材Aにもっと教えてもらいたかったこと (自由記述)
8. 他の先生と違う点 (自由記述)
9. 今後も外部人材Aのような人材派遣があれば来てほしいですか？
10. その他 外部人材Aとの関わりでの感想 (自由記述)

設問1～3, 5, 9は、当てはまる(5)、やや当てはまる(4)、どちらともいえない(3)、やや当てはまらない(2)、当てはまらない(1)の5段階評価



# 結果：外部人材の感想



## ①外部人材A

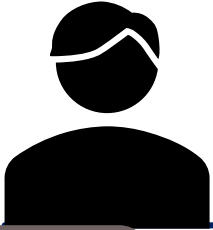
メリット

- ・学校現場に関われる、教育の場に立たせていただくことが自体が貴重な経験
- ・専門性を活かした授業を行うことができ、生徒に細かなアドバイスができる点
- ・プロ選手が学校現場に行くこと自体
- ・セカンドキャリアの選択肢を広げやすくなる点

デメリット

- ・授業に参加できる日程がオフに固定されてしまうため参加できる日が限られる
- ・実質オフが無い状態になるためコンディション維持が難しい
- ・チームの状況によっては急遽参加不可能になってしまうことがあった
- ・専門種目であれば指導を行いやすいがその他の種目に関しては知識が乏しい
- ・学校現場や校風などなれるまでは不安がある

# 結果：外部人材の感想



## ①外部人材A

難しいと感じた点

- ・普段選手として行っているスクールとは異なり、運動が嫌いな生徒や苦手な生徒がいる状況での授業はモチベーションを上げることや飽きさせない授業を行うことが難しい
- ・学校によって十分な環境や備品があるとは限らないため、道具が無かった場合の授業の工夫などが難しいのではないかと感じた
- ・今回は実技テストを課す学校だったため、習熟度別の内容を行う必要があったが、時間が限られていることから難しさを感じた

教職への意欲

- ・授業を通じて生徒の成長を感じることができた
- ・様々な種目について知り、学ぶことができるため自分自身の成長にも繋げることができた
- ・実際に指導を行う中で、すること、みることの楽しさを改めて感じることもできた

教職への意欲がこれまで以上に強くなった。

# 結果：外部人材派遣したことによる教員・生徒への影響



②校長先生

教員への影響

生徒への影響

メリット

・良い刺激になったと思う

・良い影響があったと思う

・一流のアスリートの授業は見るべきものがあると思う。ただ、外部人材自身の人柄や授業に臨む姿勢、態度等がどのような効果、刺激を与えるかに関与すると思う

デメリット

・受け入れる際の費用面や学校側の体制づくりなどが負担

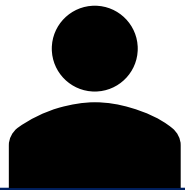
・自校の教員文化に馴染まない場面での調整や修正が必要



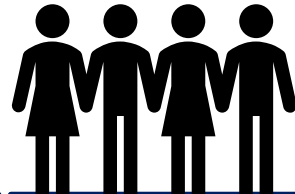
# 結果：外部人材派遣のメリット《生徒への影響》

## Q. 外部人材との関わりが生徒にポジティブな影響を与えたと思うか

1(当てはまらない) 2(やや当てはまらない) 3(どちらともいえない) 4(やや当てはまる) 5(当てはまる)



③主任教諭 5(当てはまる)



④授業担当 4(やや当てはまる):1名  
5(当てはまる):3名

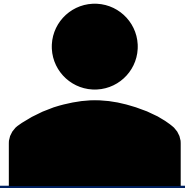
- ・プロの指導を受ける機会は非常に有効で多様な刺激になると考えられる
- ・部活動をしている生徒も多いため、教員免許をとるきっかけになったりするのではないかと
- ・外部人材が所属するチームやバスケットボールにも興味を持つきっかけにもなったと思う

- ・毎回同じ指導者からの授業よりも、外部指導者の新たな目線から関わっていただけすることで、新鮮な空気が生まれメリハリがでた。
- ・普段の授業より生徒達がフレッシュな感じでやれている様な気がしました
- ・専門競技においてトップクラスの方からのアドバイスは、貴重な経験だと思う
- ・専門的技術の習得に意欲的になった

# 結果:外部人材派遣のメリット《先生ご自身への影響》

## Q. 外部人材との関わりがご自身にポジティブな影響を与えたと思うか

1(当てはまらない)2(あまり当てはまらない)3(どちらともいえない)4(やや当てはまる)5(当てはまる)

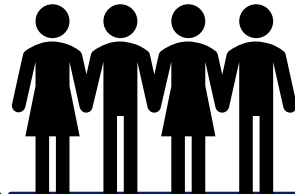


③主任教諭

4(やや当てはまる)

・普段関わることのできないプロの方との交流を通じて、いろいろな話ができたり、人間関係が少し広がった

・バスケットボールの指導をしている姿を見て、自信を持ってハキハキしている状況を見て刺激を受けた



④授業担当

4(やや当てはまる):3名

2(あまり当てはまらない):1名

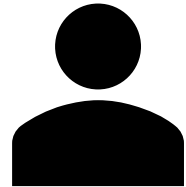
・専門知識や技術があるので今後の授業展開のヒントになった  
・全体的な負担が少なくなったのではないかと感じた

・専門競技者による、専門競技の授業の中での言葉掛け、アドバイス、ポイント説明などがためになり、考える幅や伝える幅が広がった

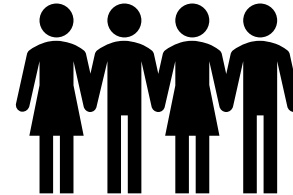
・専門性の高い種目でも、外部指導者のように細かい指摘をしてあげることによって変えようとする生徒の姿が見られたことが、自分自身に大きな影響があったと言える



# 結果：外部人材派遣のデメリット



③主任教諭



④授業担当

心理的負担

4(やや当てはまる)

1(当てはまらない) :1名  
2(あまり当てはまらない):1名  
3(どちらとも言えない) :1名

身体的負担

2(あまり当てはまらない)

1(当てはまらない) :4名

時間的負担

4(やや当てはまる)

1(当てはまらない) :4名

スケジュール管理などの役割を果たした③主任教諭の負担が大きい

# アンケート対象



⑤生徒

学年	性	所属部活動			合計
		バスケ	バスケ以外の 運動部	その他	
中学1年	男	3	51	12	66
	女				0
	非回答		1		1
中学2年	男	1	13	5	19
	女	3	12	15	30
	非回答			1	1
高校1年	男		7	7	14
	女				0
	非回答		2		2
高校2年	男		3	13	16
	女				0
	非回答				0
高校3年	男		1		1
	女				0
	非回答				0
合計		7	90	53	150

(人)

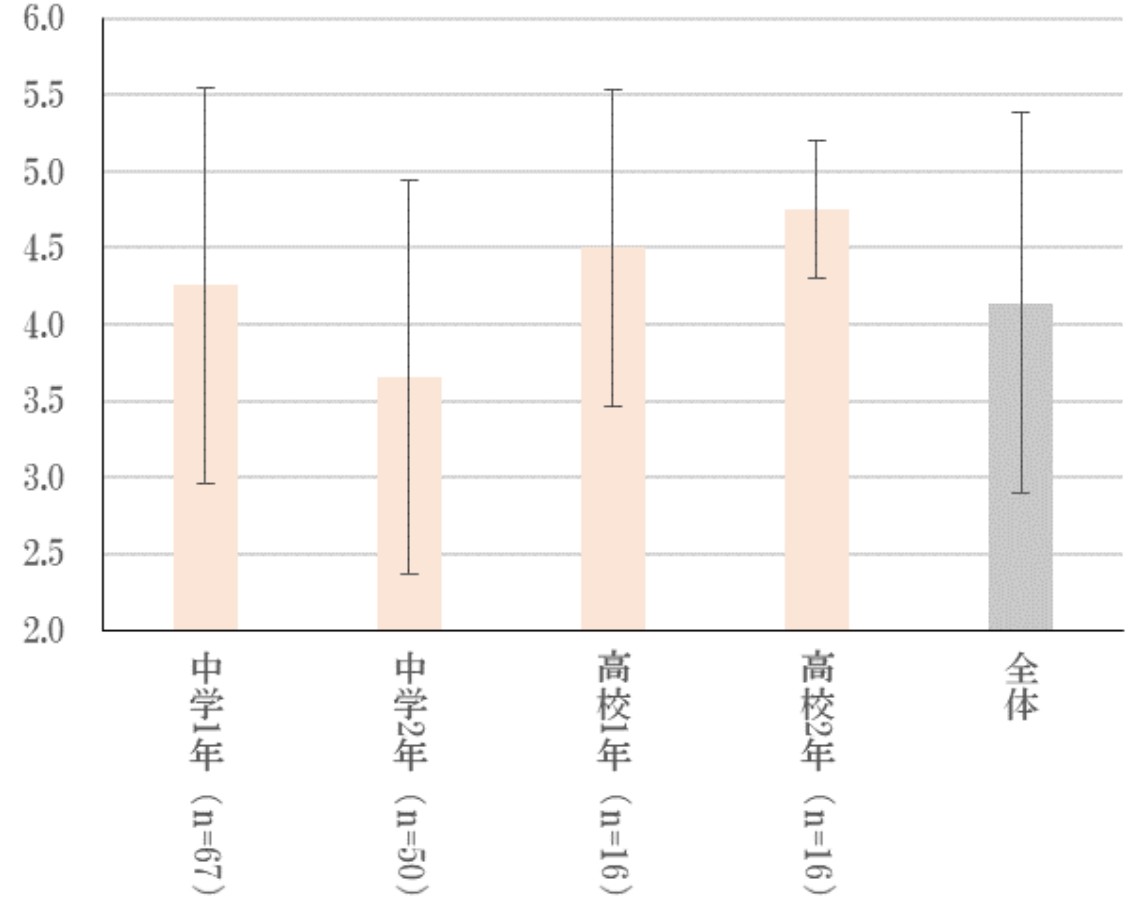
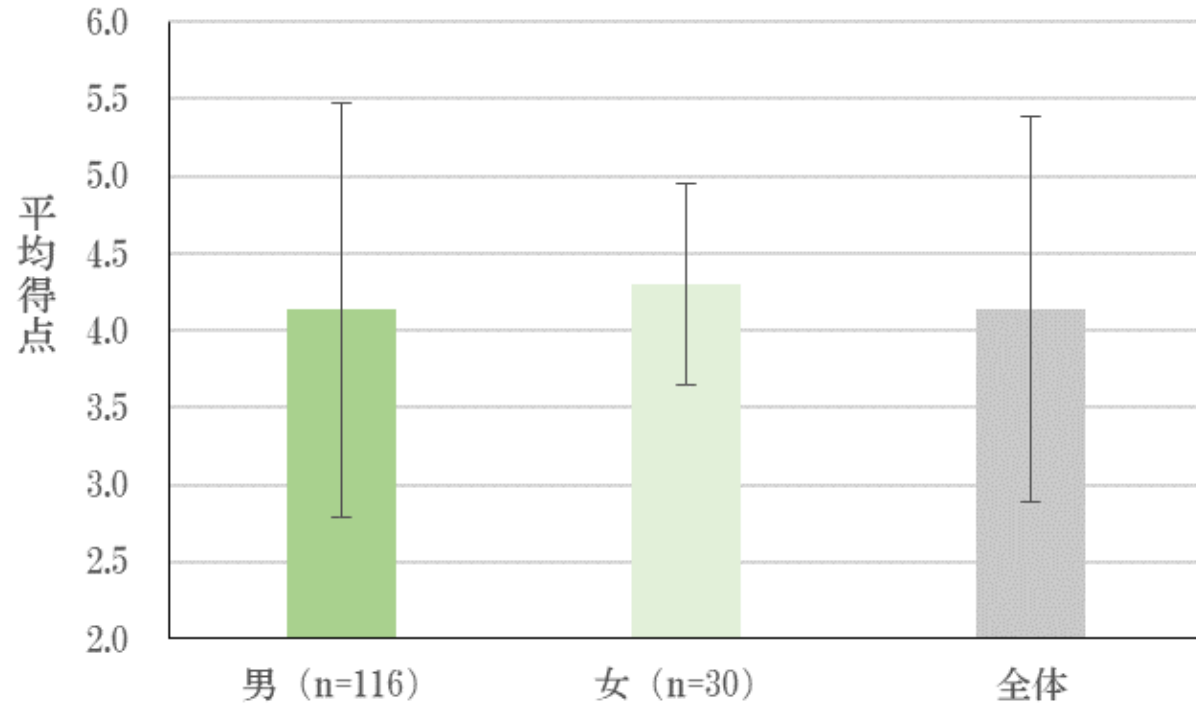
男性116人、女性30人(非回答4人)で全体に、男性が多かった



# 結果：生徒へのアンケート ①



## 設問1. 授業に満足しましたか？



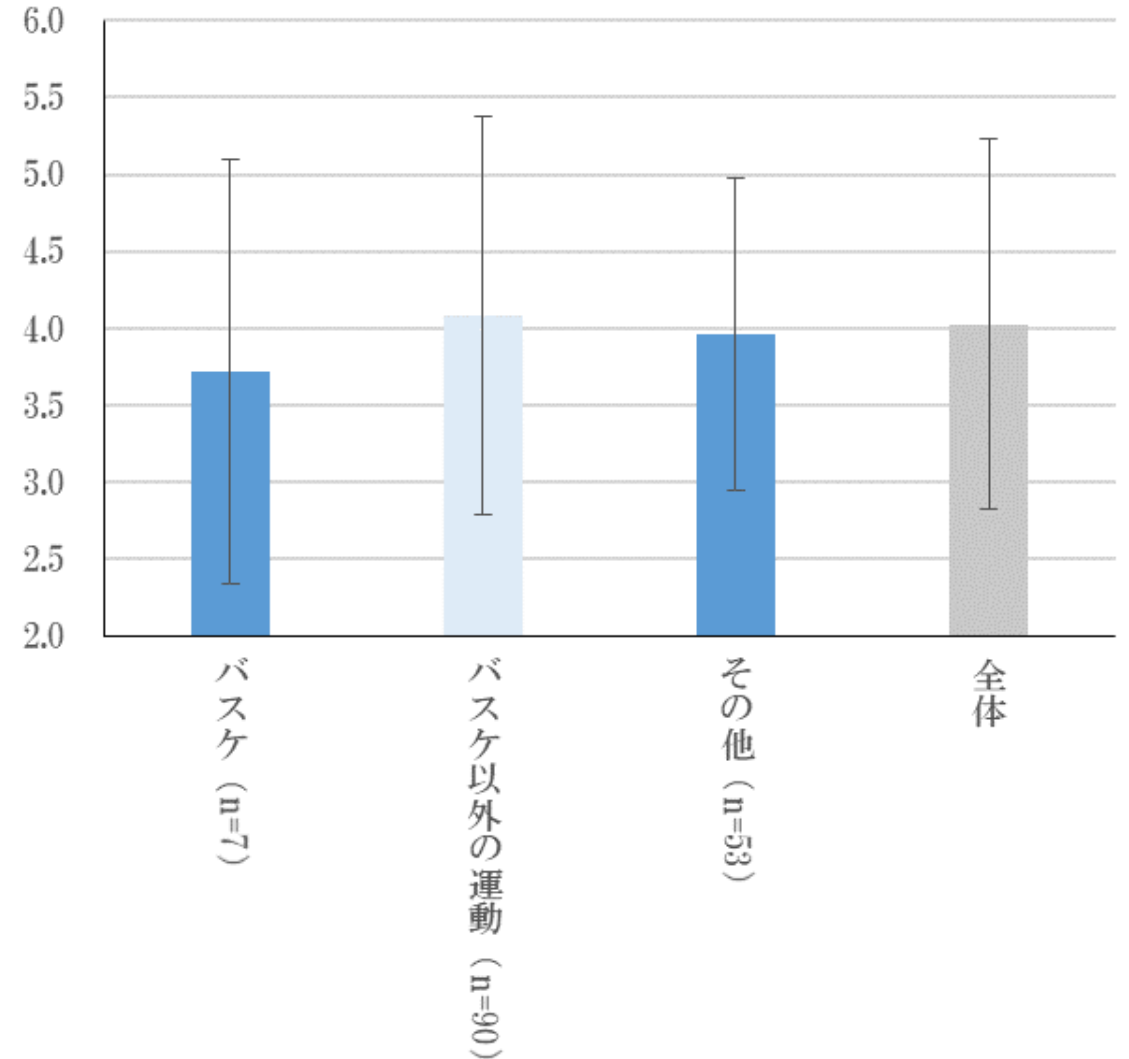
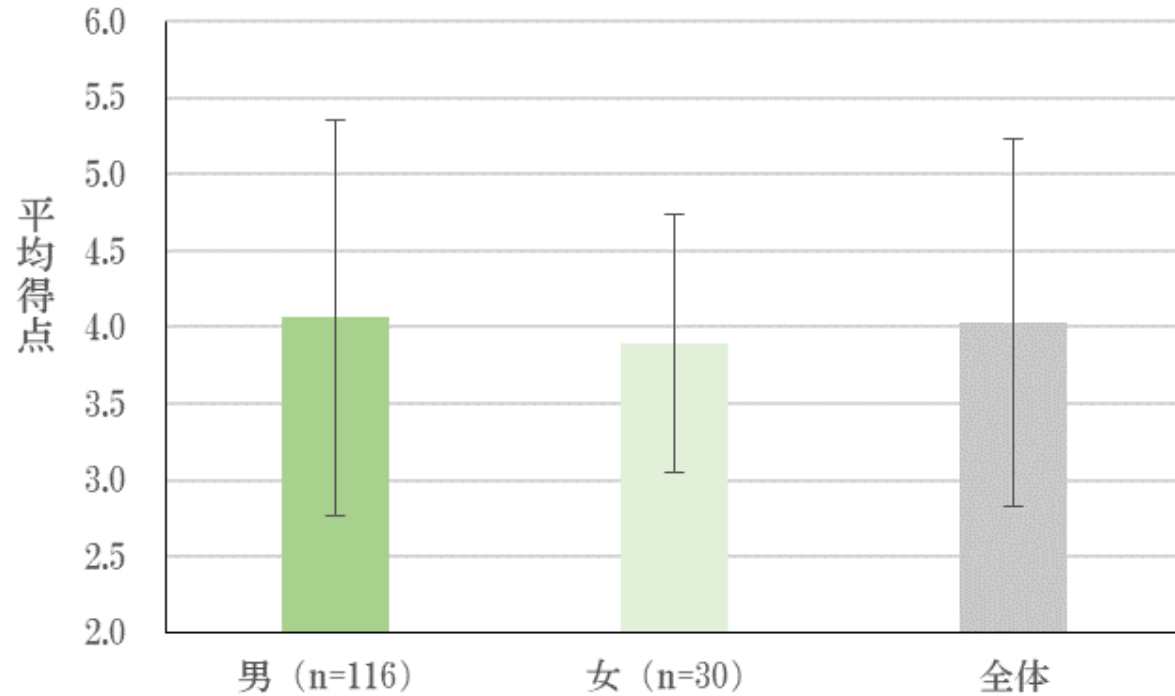
- ・全体として満足度は高い(4.1±1.3)
- ・男女に大きな違いはない
- ・高校生の満足度が中学に比べ高い



# 結果：生徒へのアンケート ②



## 設問2. 運動への興味は高まりましたか？

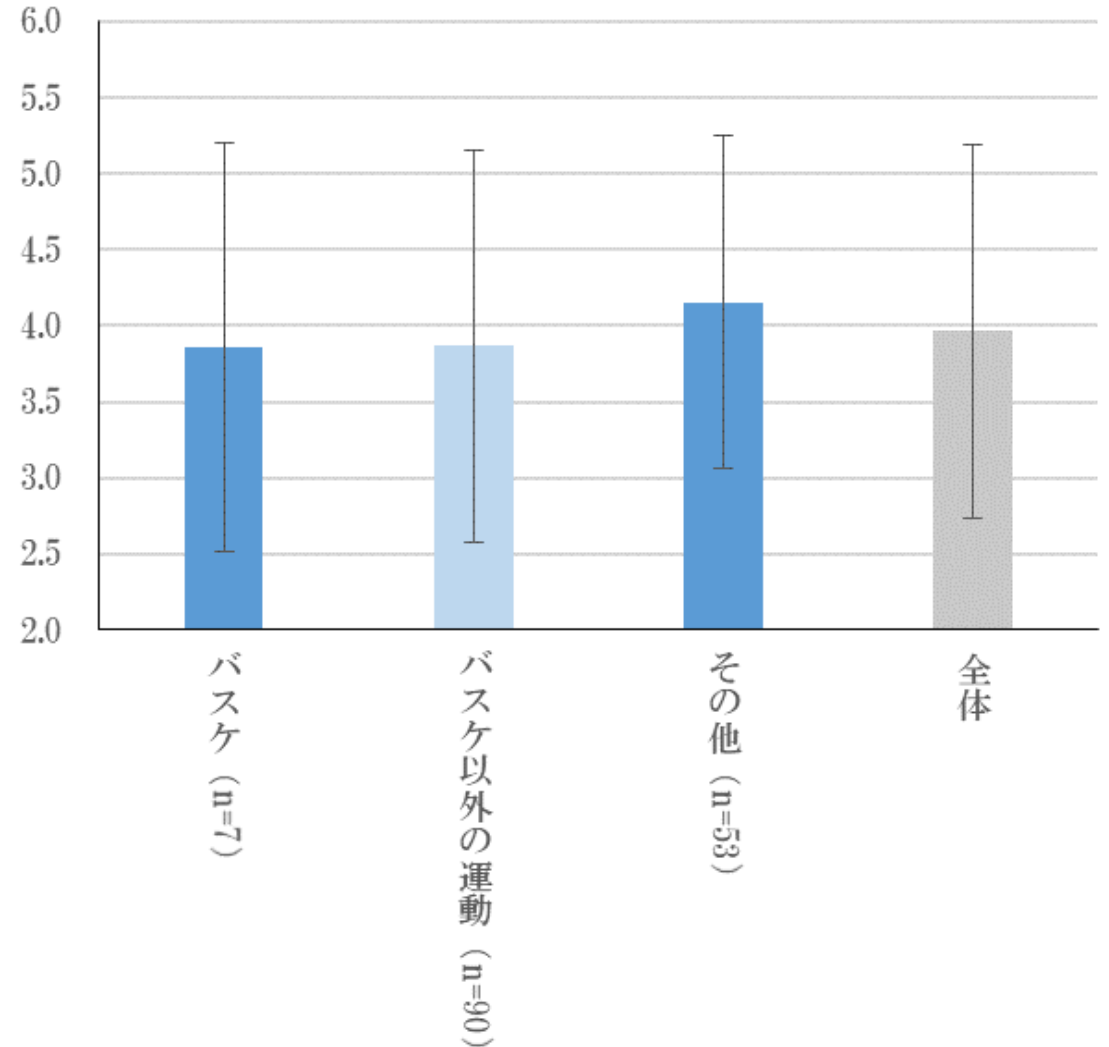
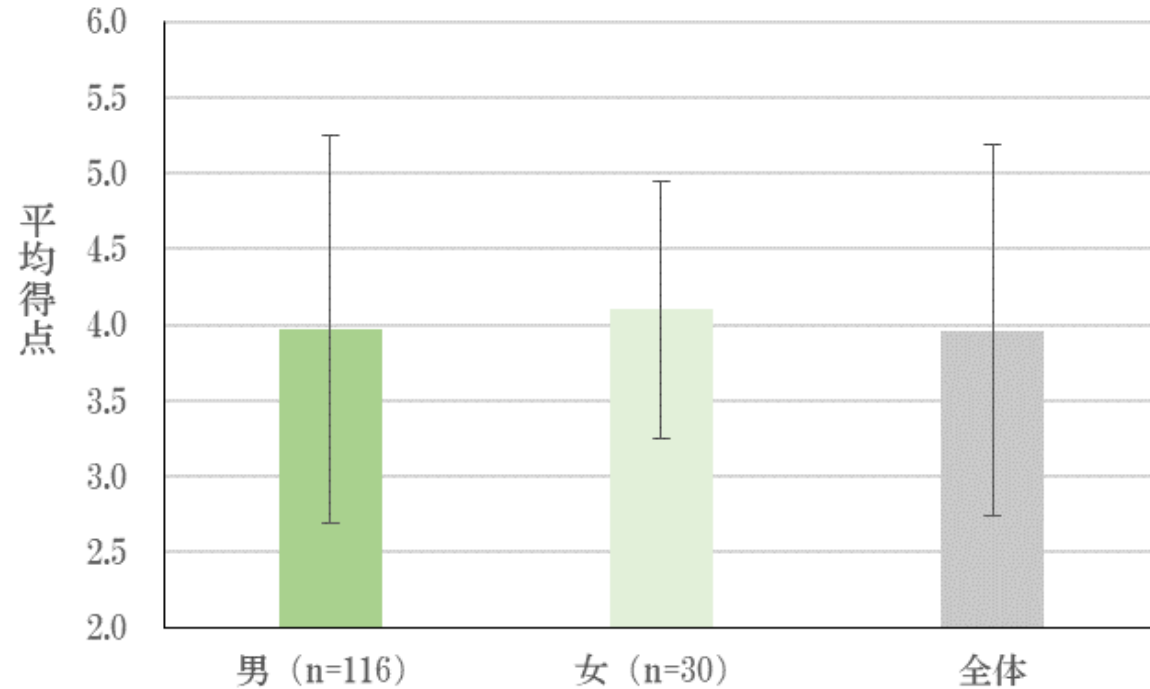


- ・男女問わず全体として興味は高まった(4.0±1.2)
- ・バスケ部以外の高まりがより高い傾向
- ・学年により低い傾向もあり(中学2年:3.5±1.2)

# 結果：生徒へのアンケート ③



設問3. バスケットに関する興味は高まりましたか？

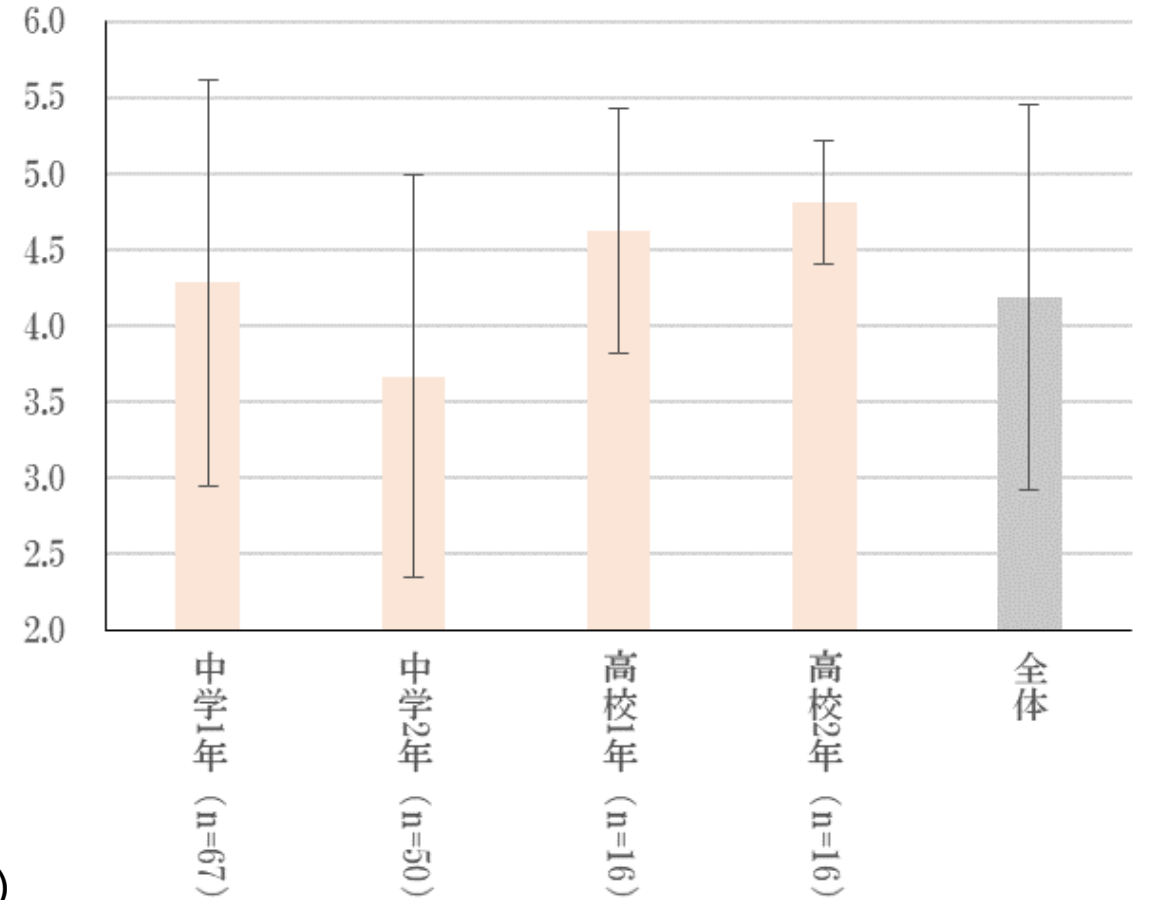
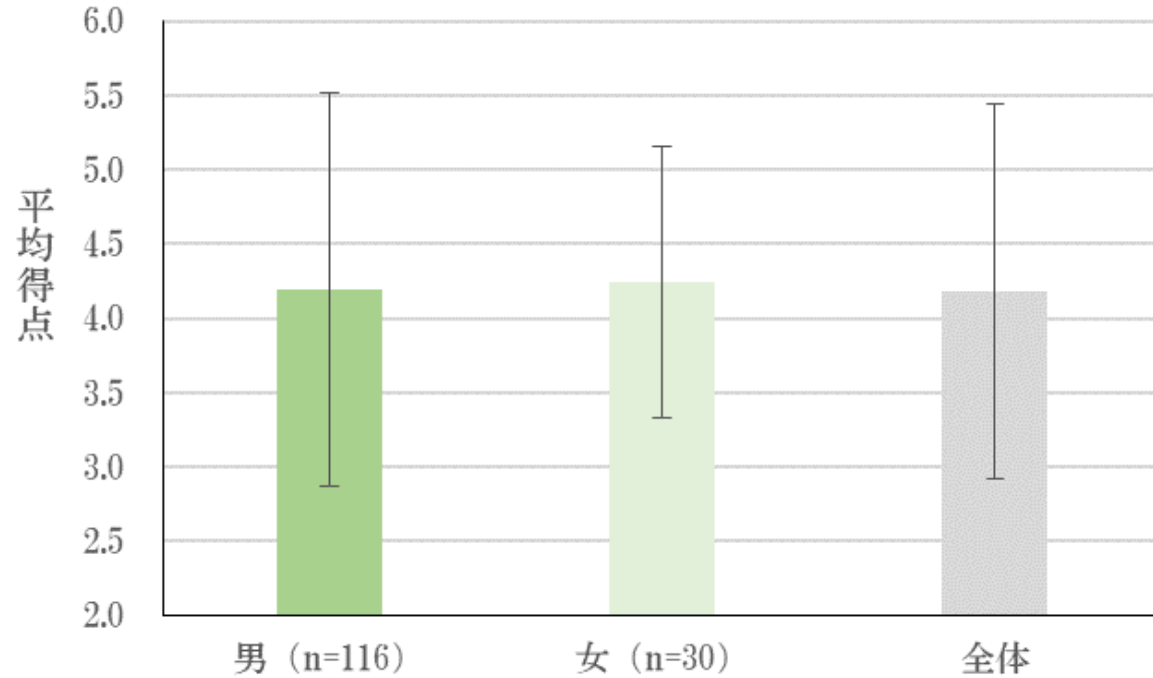


- 全体として高く、女子より高まる傾向(4.1±0.8)
- 高校生が有意に高い(1年4.4±1.0、2年4.4±0.5)
- 運動部活動以外が高い傾向(4.2±1.1)

# 結果：生徒へのアンケート ④



## 設問5. 教え方は適切でしたか？

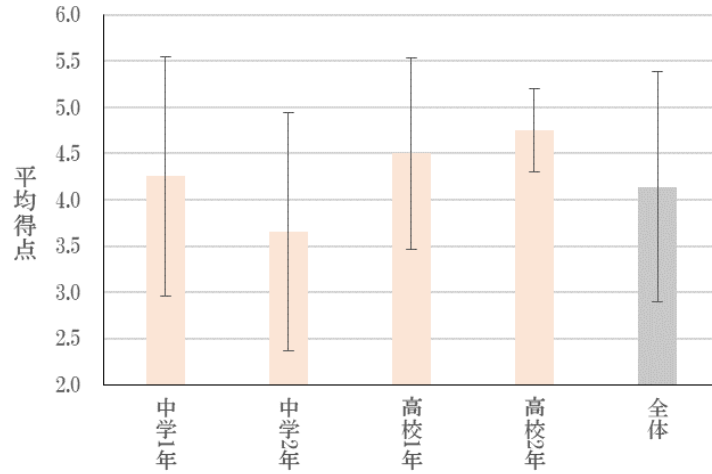


- ・男女問わず全体として高い(4.2±1.3)
- ・高校生が有意に高い(1年4.6±0.8、2年4.8±0.4)
- ・中学2年生の評価はばらつきが大きく、他に比べ低い(3.7±1.3)

# 結果：生徒へのアンケート ⑤



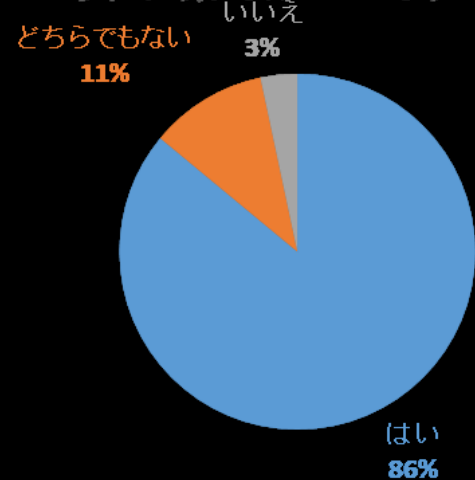
設問1. 授業に満足しましたか？



## メリット・傾向

- ・どの学年についても満足度は高く、3.5ptを上回った
- ・バスケットボールに限らず運動への興味が高まるとの回答が多い
- ・運動部以外の所属する生徒や女子の興味がより高まる傾向
- ・バスケットボールや運動について、具体的な手立てを得る

設問10. 外部人材Aのような人材派遣があれば来てほしいですか？



## デメリット・傾向

- ・満足度の結果から、学年により展開方法等に斑が出る可能性
- ・バスケットボール部には授業内ではニーズに応えきれない
- ・Aの競技力が高く、授業内容を生徒自身のこと置き換えて考えるために工夫が必要

# 結果：今後の外部人材活用について

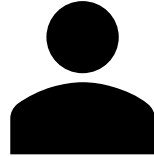
## Q. 今後も外部人材を活用したいと考えるか



②校長先生

どちらともいえない

- ・費用負担の大きさとメリットのコスパが、外部人材の質、個人差に依るところが大きい
- ・本当に欲しい人材であれば負担しても実施となるが…



③主任教諭

はい

- ・プロ選手のセカンドキャリアとして選択肢が広がることは歓迎されることであり、現場の負担はあるものの、狭い学校という環境の中で刺激を与えることは有効



④授業担当

はい:4名

どちらともいえない:1名

- ・継続的に関わってもらえるならプラスに働くことが多いと感じた
- ・色々な大人が関わる事によって、生徒達の成長の幅に繋がると思う
- ・専門競技に関して言えば効果的な部分大きいですが、それ以外の場合は一般の体育教員と変わりないと感じた
- ・とてもいいことだとは思いますが、事前の打ち合わせや内容の共有など時間をかけて下準備をするべき

有効であるとの回答が多いが、制度整備や受け入れ側の準備、専門外種目への効果に関しては課題が残る



# 本事業から見えた課題①

- 静岡県においては、特別教員免許の制度はあるもののその制度を行政側が把握していないケースも見られた。また、教員採用試験において、アスリートの枠などは設けられておらず、ヒアリングした時点においては、導入する予定はないとの回答であった。更なる広報、周知活動が必要である。また、現場の勉強不足、情報取得を促す取り組みが必要となる。
- 本事業によって、外部人材活用の有効性が一定程度認められたが、現時点で、静岡県においてアスリートに特別教員免許が付与される条件としては、私立の中学校・高等学校と個別に採用の締結を条件に入職することのみである。静岡県スポーツ協会、静岡県障害者スポーツ協会等はアスリートのセカンドキャリアとなる今回のような取り組みには好意的であり、静岡県含め、教員採用試験にアスリートの特別枠がない都道府県に特別枠を設けるよう働きかける必要がある。



# 本事業から見えた課題②

- 本事業でも、外部人材を集めるために、静岡県スポーツ協会を通して、各競技団体に情報を周知していただいたが、アスリート個人に届いていないケースも見られたため、アスリート自身が運営する選手協会の組織等に周知するなど、様々な周知方法を採る必要がある。
- 本事業での外部人材は教員免許こそ取得していないものの、教育実習以外の科目はほぼ履修している素養がある人材であったため、特に大きな問題は起こらなかったが、教員に向けての授業を全く履修していない人材の場合は、今回の計画にもあったような教員免許取得に必要な授業等の履修もある程度は必要になってくると考えられる。

